

先進地に学ぶ 研修レポート

総務文教委員会 研修報告

平成22年7月20日～22日

富山県南砺市

58,140人

福井県越前市

85,766人

南砺市の「スポーツ振興によるまちづくり」と越前市の「地方自治振興事業」について視察研修を行った。少子高齢化社会を迎え、「次代を担う子供たちの健全育成」「高齢者の健康維持と生きがい」など、スポーツにおける重要な施策と捉え、平成19年3月に南砺市スポーツ振興計画が策定された。この計画は「市民一人ひとりの豊かなスポーツライフの創造」のため「環境づくり」「人づくり」を基盤的施策のもと、市内の総合型地域スポーツクラブの育成・定着のため体育協会、各種スポーツ団体との連携を図り進められている。



研修風景（南砺市）

越前市の自治振興会（筑後市の校区コミュニティ協議会に相当）は、小学校区の17地区に分けて、地区住民の積極的な参加により、既存の組織を見直しながらそれぞれの地区から自ら策定した自主的、主体的な創意工夫のある地域自治振興計画に基づき、潤いのある個性豊かな魅力あるまちづくりや住民自治を進める制度となっている。また、町内会の区長は、自治振興会の役割に就任するよう要請し、町内会との連携を図っている。

厚生委員会 研修報告

平成22年5月19日～21日

東京都武蔵野市

135,901人

東京都府中市

250,904人

武蔵野市は昭和22年に市としてスタートした郊外住宅都市である。医療機関と行政という地域リハビリの意味合いに差があることが「脳卒中地域連携バス」に取り組みきっかけとなった。成果として、医療側からは、病院の言葉と介護の言葉が共通語として認識されるようになり、在宅側からは、急性期病院が地域を意識してくれるようになった。また利用者側からは、何も解からないうちに病院を追い出されたという感覚が、専門職などの説明で安心感につながった、とのことであった。今後は「認知症地



研修風景（府中市）

域連携バス」を検討しているという。府中市は、平成19年にゴミ焼却炉が閉鎖となり、ゴミ減量が大きな課題になった。それまでは24時間いつでも出せるダストボックス方式だったが、市民は不快な臭いで不便を感じていた。ゴミ収集方法の見直しで、ゴミの50%削減とリサイクル率日本一の実現を目標に掲げた。ダストボックス方式から戸別収集へ移行するための説明会を延べ600回以上行った。実際戸別収集を始めて、クレームはほとんどないという。現在は25%程度のゴミ量の削減の実現、ゴミ質も良くなっているとのことであった。

建設経済委員会 研修報告

平成22年6月29日～7月1日

石川県白山市

113,293人

富山県富山市

417,646人

白峰地区は、白山市の南部に位置し白山市役所より約45km離れた手取川ダム上流にあり、公共交通もバスが1日2往復しか通っていない地区である。

依存しなくても生活サービスを利用できる生活環境の形成を目指している。市民が日常の足として公共交通を利用しやすくするように一定のサービスを確保し、それらを強化するための活性化が必要。これらのことを具体的に進める為に富山ライトレール(株)を設立し、建設費すべてと、施設の維持費を行政が負担し、運賃収入によって運行経費のみを負担している。筑後市の公共交通については、富山市と比較すれば良い方だが、今後議論が必要だと感じた。

平成19年度から温泉と伝統的町並みを活かした白峰を推進するため、白峰温泉総湯、地域交流センター、特産品販売施設、まちなか公園の整備等が行われ、地域の賑わいの場として訪れる人との交流を推進し、まちなかの回遊機能を向上させる取り組みが行われている。筑後市においても温泉施設、地元特産品販売施設の整備が進められており、研修を活かせないかと感じた。



研修風景
（白山市白峰地区）